

難易度設定に基づいた段階的運転リハビリテーション治療

桔梗ヶ原病院

園原和樹

近年、運転支援の分野においてドライブシミュレーター（以下 DS）が運転適性の評価に用いられている。当院の運転支援においても DS（Honda セーフティナビ）が用いられており、近日、訓練課題として DS を用いたリハビリテーションにより運転技能が改善する症例を経験した。DS を用いた運転支援を行う中で、DS には①運転技能の評価、②運転技能の再獲得や運転習慣の再学習のための訓練機器としての意義があるものと考え、当院では 2017 年より DS を中核とした自動車運転リハビリテーションプログラム（以下自動車運転プログラム）を提供している。Honda セーフティナビの運転能力評価サポートソフトには、13 種類（合計 59 個）の走行コースが存在する。自動車運転プログラムの開始当初は、DS 訓練の担当者（医師、作業療法士、言語聴覚士）が患者に提供する走行コースの差異を理解できず、一定の訓練効果が得られないという課題が存在した。その後、担当者間で意見交換を行い、現在は走行コースを①運転技能の訓練、②安全運転のための運転習慣の再教育に分けて訓練を行っている。当院の自動車運転プログラムの特徴は「患者の回復段階にあわせて、適切な難易度の走行コースで DS 訓練を行うこと」であり、当日は同プログラムの詳細について報告する。